



2018年の社会的な大きな変化として、外国人労働者の受け入れを拡大の為に改正入国管理法が成立したことが挙げられます。同法案の審議過程で研修生が劣悪な環境で働いていることがやっとメディアで取り上げられるようになり、日本で暮らす外国人について社会の関心も高まりました。外国籍の人々が増加する一方依然として外国にルーツを持つ子どもたちやその家族が日本社会で生きる上での困難さは変わりません。

昨年の私たちの新しい挑戦として、外国人青年からのお話会を開いた事が挙げられます。日本での学校経験を経た外国人の大人たちが日本社会でどのような仕事についているか、どう

してその仕事を選んだのか、学校から社会に出るまでどんな経験をしてきたのか、今まで大事だと思った人とのつながり等、ざっくばらんにこの地域に住む外国にルーツを持つ子どもたちに聞いてもらう取り組みです。私達のねらいとしては、子どもたちにとって様々なロールモデルと出会って欲しいし、知ってほしい、こんな体験がこれからあるかもしれない、先輩たちはこんな人たちに頼って乗り越えてきた、などいつも関わっているスタッフだけではないメッセージを聞いてこれから日本社会や学校で生きるための活力・資源になってほしいということがあります。私達のこのような小さな取り組みが大きな政策決定の場の一助となることを願いながらも私たちはすたんどばいみーの活動を維持して行きます。

REPORT

事業報告

外国人子ども支援事業

小学生教室

毎週土曜日の午後に行われる小学生教室には、就学前から6年生まで25人前後の子どもたちが参加しています。教室に来ているこどもは、来日して3年以内の子どももいますが日本生まれの子どもがほとんどです。

子どもたちの中には、分からない勉強をそのままにしたり、言いたいことを言えないままにしたりする傾向があります。そのため教室では子どもたちが伝えたい思いや相談が言えるよう雰囲気を作っています。例えば学校で「先生が最近〇〇するの！」と愚痴をこぼしたり、家庭で

中学生教室

現在中学生教室は、毎週日曜日19時～21時に開催しています。以前は毎週土曜日に開催していましたが、部活や塾で参加出来ない子どもが多かったため、開催日程を変更しました。参加している生徒は3年生が3人、2年生が2人、1年生が1人です。

教室では、通常の学習支援のほかに高校進学支援を実施しています。まず、学習支援では学校での内容の復習や、定期試験・入試に向けた学習をしています。外国にルーツを持つ子どもたちは、授業中に先生が話している内容が分からなくても「わからない」と言えず、回りにいる日本人が何をやっているかを見てから動くことがよくあります。現在の学習内容だけでなく、遡ってやり直すことも重要だと考えて学習支援に取り組んでいます。

続いて、高校進学支援としては、高校見学に同行しました。日本人の親なら生徒と一緒に高校見学へ行き、聞いたことを説明できるかもしれませんが、外国にルーツを持つ子どもたちは日本語が苦手な親がほとんどで一緒に行っても理解できないことが多くあります。親の代わりとしてスタッフが一緒に付き添い、説明されたことを分かりやすくして、生徒の不安を解消しました。また、12月末には高校受験のための集中講義を行いました。集中講義では中学校の教員に来てもらい、入試試験に出やすい問題をピックアップして勉強し、面接練習を何度も行いました。

教室にはベトナムから来日して1年半の生徒がいます。彼は在県外国人特別募集の枠を利用し受験をします。来日して間もない生徒に限らず、外国人の両親を持つ子どもは、家庭で学校のことを

「こんなことがあった」と最近の出来事を話したりする子どもたちがいます。私たちは「〇〇してみたらどう？」と助言をしたり、「どうしてなの？」と聞いてみたり、少しでも子どもにとって良い解決になるように子どもの話に傾聴します。他には、教室で前学年の内容にさかのぼって躓いている部分を復習しながら、現在学校の授業で行っている内容をスタッフと一緒に学習しています。

私達の教室では、日本社会における外国人である事と障害をもつことによるダブルマイノリティによる特別支援が必要な子どもが参加しています。その子どもに対して専門的な先生のサポートを受けて支援しています。表情について学ぶことや絵本を読むなど、学習以外のサポートや遊びも取り入れ、頭や体の体操も行っています。特に、子どもの自尊感情を高めていくことを大切にしています。

活動する地域では、特別支援級に在籍する外国人の子どもが増えています。そして、親世代の現状として、言語理解の問題や身近に頼れる通訳者がいないため、外国人家庭は制度を使えず困っています。教室では、専門的な先生に協力してもらおうと同時に、スタッフも特別支援級に在籍する外国人の子どもたちのニーズについて勉強をしていく必要があります。そして、親との関係を築きながら情報の提供を行っていくことが大切であると考えています。



教わる環境がなく、高校入試の制度の知識が少ないです。そのため、ただ一緒に勉強をするのではなく、本人の考えていること、悩んでいることなどを引き出すことや、今自分がどんな状況なのかを言葉にしていけるのが重要です。また、スタッフがそんな生徒たちの進路をサポートするためにも入試に関わる色々な情報を学ぶことも日々必要だと感じました。



REPORT

外国人大人支援事業

日本ってどんな国??

現在、日本語教室に参加しているのは多数のカンボジア人と1名の中国人です。毎回10人程度の受講者が参加しています。日本の在留資格は永住者の配偶者と研修生です。どのボランティア教室にもあり得る事だと思えますが、参加者あるいは受講者が自由に参加できると同時に、しばらく見かけないと思っていると半年ぶりに再参加することもあります。日本語検定を受験する意思がある人は継続して参加する一方、検定を受けない人は日常会話の習得程度を望んでいるようで、来たり来なかったりします。そんな緩い参加状況の生徒とすたんどばいみーのスタッフで教室は運営されています。

スタッフは、教室の終わる5分前になると授業内容で理解しきれなかった所や生活で困っている事を聞きますが、昨年の受講者と比べると、最近はそのような意見をあまり聞かなくなりました。

考えられる背景としては、永住者の配偶者で呼び寄せられた人は、日本語ができる家族や親族に頼る状況ができたということです。また、研修生においてはコミュニティの誰かに頼るようなネットワークがあるということです。

日本語の参考書は、日本の文化紹介や生活に関係する内容が盛り込まれていることが多いですが、日本の文化紹介の際には、「知らない、見たことない、食べたことない」などの声が

挙がり、日本で生活していながらもかれらが日本の文化を経験する機会がないことに気づかされます。永住者の配偶者は日本で永住することを考えるとこれからでもそれらを経験する機会がありますが、研修生として日本で生活するかれらは限られた年数の中で日本の工場労働しか知らないまま母国に帰還します。良い経験を得られなかったかれらが、果たして再び日本に行きたいと思うかどうかは考えるところがあります。



REPORT

学校相談支援事業

特別でいいんだよ。

学校相談支援事業では、学校からの要請を受けてベトナム語の通訳を行いました。支援内容は小学5年生と6年生の子どもの隣に付いて、授業内で先生が話すことや本人たちの日常の悩みなどを聞いたりしたことです。

子どもたちからの主な悩みとして、教室内で友達やクラスメイトが話しかけてくれるが、たまに自分の言いたいことが伝わらず嫌な表情をされるなどなじめないことがある、けんかをした時にうまく自分が伝えられず相手にすべて言われてしまうということがありました。悩みの背景として、言語の難しさや文化の違いにより、先生やクラスメイトに理解されないことが挙げられます。また、先生の子どもたちへの配慮があまり見られないことから、教室の中でも不安や孤独を感じてしまうのです。そのため、

学校の先生は彼らに寄り添えるように工夫していくことが大切だと思います。通訳者だけに頼るのではなく、配布するプリントには翻訳を載せることや、来日間もない子どもにとっても自分を表現できる場を作ったら良いと思います。

外国人の子どもたち向けに、分かりやすい授業を行うことが大切だと思いました。例えば、難しい漢字にはふりがなを付けることや、絵を使って表すことなど工夫をしたら子どもたちの理解度も変わると、授業に入って感じました。

REPORT

多文化共生推進授業

ここにいるよ。

【開催日時】2018年10月6日

【場所】いちょう団地

毎年10月に開かれるいちょう団地のお祭り（以下団地祭り）は、地域の住民により出店がされ、多くの人で賑わう大きなお祭りです。ベトナム料理やカンボジア料理など多国籍の料理店が出店され、団地に定住する外国人の大人たちもお店を切り盛りします。

すたんどばいみーも毎年申し込みをして、スタッフを中心に出店しています。今年は市民祭りでもお馴染みとなっている、焼きそばとフランクフルトを販売しました。

市民祭りでは活動の宣伝や資金獲得を目的としていますが、この団地祭りでは価格を下げ、利益を目的としていません。「外国人当事者団体であるすたんどばいみー」が「今も」活動をしていることを地域の外国人の大人・子どもに発信すること、また、すたんどばいみーが以前に、学習支援などの活動に関わってきた当時子どもであった若い大人たちとの接点を持つことが目的です。

当日は、学習教室に来ている小学生がたくさん手伝いにきてくれて、焼きそばの調理のお手伝いや受付、呼び込みを元気に行っていました。

子どもたちの親や学校の先生も来店して子ど



もと話すような場面もありました。また、自分たちの親やその知り合いの大人など、普段の活動や日常生活では関わる人がない人にも手伝ってもらったり、商品を買ってもらったりと交流することもできました。

1日の中で、スタッフと同級生の外国人の青年、昔教室に来ていて現在は家族を持っている若い親など、いろんな「すたんどばいみーに来ていた子」とスタッフが懐かしそうに話し、「今なにをしているの？」と近況を聞く場面が幾度となくありました。「まだばいみー*やってるんだね！」（*すたんどばいみーの略称）と言って、とても懐かしむ様子も伺えました。少ない時間でも近況を話せたこと、「今もここ(団地)にいる」「がんばって生きている」ということがお互いに認識できたことが収穫と言えます。

また一年経って、お互いにならなっているのか、変わらず元気になっているのかを認識する場として、団地祭りがひとつのキッカケになっていると思います。



REPORT

外国人子ども支援事業

みんなでやり遂げたキャンプ

【開催日時】2018年8月17、18、19日

【場所】長野県駒ヶ根キャンプセンター

【参加人数】小学生11人 中学生1人 大人6人

今年も小学生・中学生と一緒にキャンプへ行きました。私たちは、日常から離れた場で生活を共にして子どもたち同士が協力をして欲しい、という気持ちを込めて毎年キャンプを行っています。

今年のキャンプのコンセプトは、子どもたちのつながりの大切さと、自然の中で一人一人の役割を作り協力をしていくことでした。

教室にくる子どものほとんどは、日本生まれの子どもたちです。そのため、言語の問題により親に物事を伝えられないことがあります。子ども達がキャンプに参加できるよう、各国の言語を話せるスタッフから親に連絡をしたり、家へ訪問したり、子どもの母国にあわせた言語のチラシを持っていったりしました。

キャンプでは、同学年や他学年と一緒に食事作りや山登り、染め物体験などをしました。キャンプに参加した子どもたちから、「来年もま



たやりたい」という声や「山の頂上まで登りたい」という声があった事は成果です。

今年見えた課題としては、教室に参加する子どもにきょうだい連れが増えてきている為、夏休みになると長期で帰国をする子どもが増えて、キャンプに参加できる子どもが減っていることです。これは、これまでの親世代と異なり、呼び寄せや出稼ぎを理由として来日している層が増え、帰国しやすくなったからです。来年は、より多くの子ども達が参加できるように日程や参加のあり方について考えていきたいです。

REPORT

外国人子ども支援事業

ベトナムのサーカス『AOSHOW』に魅了された子どもたち

【開催日時】2018年11月17日 【場所】文化創造拠点シリウス
 【参加人数】小学生24人 中学生1人 大人6人

私たちが活動拠点とする大和に、ベトナムのサーカス『AOSHOW』がやってききました！小学生教室やベトナム語教室に参加している子どもたちと一緒にベトナムの文化芸能に触れてほしいと思い、遠足を企画しました。総勢31人で見に行くことになりました。

ショーを鑑賞するにあたり、ベトナムの歴史や文化について事前学習を行いました。ベトナムの村の風景や戦争があったこと、戦争時にアメリカ軍によって使われた枯葉剤の影響と恐ろしさについて子どもたちに話をしました。また、ベトナムルーツの子どもは自分たちが知っているベトナムについて話をしてくれました。特にこの学習では、自身のルーツについて考えて欲しかったため、自分たちの親や祖父母の世代が戦争を経験し、日本に渡ってきたことを伝えました。戦争が遠い過去あるいは自分たちに無関係ではないことに子どもたちは驚いている様子でした。

ショーのコンセプトは「村と街」でした。竹や伝統的な楽器で奏でる音楽で表現する、そんなショーに子どもたちは見入っている様子でした。

ショーの当日、人で埋め尽くされた会場では、いちょう団地で支援をする在日ベトナム人一世の方の通訳を通じて、伝統楽器での演奏や、様々な竹細工と音楽に合わせて迫力あるパフォーマンスがステージ上で繰り広げられました。

鑑賞する子どもたちの口から思わず「ベトナム人すごい」「本当に来て良かった。来てなかったら後悔した」などと言葉が出ていました。サーカスの迫力に大人も含め皆、大興奮でした。後日の教室では、まだ冷めやらぬ興奮で、遠足に行けなかった子どもに「こうだったよ！」と体で表現してみせる子どももいました。

今後もこのような子どもたちのルーツに関係するイベント鑑賞する場に出かけていき、感受性を豊かにするきっかけを作っていきたいです。



REPORT

外国人子ども支援事業

毎年恒例のクリスマス会

【開催日時】2018年12月15日 【場所】渋谷中学校学校開放スペース 会議室
 【参加人数】小学生17人 大人6人

小学生教室ではクリスマス会を開催し、参加した子どもたちは、就学前から6年生までの23名でした。今回のイベントは、全学年混合で3つのグループにわかれ、各グループの中で決めた発表したいことを披露しました。このクリスマス会では、11月に『AOSHOW』を鑑賞した子どもたちから「自分たちも何か表現してみたい」という意見が出たことがテーマとなりました。そして、グループ編成は全学年混合にすることで他学年と関わる接点を作りました。

当日は、「音楽付きの言葉遊び」「みんなでゲーム」「寸劇」の各グループ発表があり、とても良いパフォーマンスでした。内気な子どもが楽しそうに言葉遊びに合わせて笛をふく姿、みんなの前に出てゲームのルール説明をデモンストレーションを交えて工夫する姿などが見られました。普段は周辺にいるような子どもが、発表の場面で輪の中心にいることが楽しそうな姿があった事が印象的でした。

発表の準備過程では、子どもたち同士の話し合いが沢山行われていました。しかし、一部の子どもの中には、やはり発言に自信が持てず、

意見を出すことに対して躊躇し、話し合いの場にいることも難しいこともありました。その背景には、家庭や学校の場で思いを言える環境がなかったり、意見を取り入れられてきた経験が少なかったりしてきたことがあるからです。そのため、おちゃらける、知らんぷりすることでその場をやり過ごす、言葉でうまく言い表せないなどのこともありました。そのような状況の中でも、高学年が取りまとめ役を行い、みんなが役割を持って表現ができるようまとめていきました。

外国にルーツを持つ子どもたちは、自身のやりたいことを見つけ、仲間と企画し、実行できるような機会が必要です。そのため、様々な体験をする楽しむイベントがある一方で、子どもが主体となったイベントもなくてはならないと考えています。



すたんどばいミーでは、
サポートしていただける方を募集しています

正会員	1口	6,000円/年	入会金 5,000円
賛助会員	1口	3,000円/年	入会金 3,000円
学生会員	1口	1,000円/年	入会金 1,000円

〈振込先口座番号(ゆうちょ銀行)〉

(ゆうちょ銀行からの場合)

記号：10910 番号：17960271

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合)

店名：〇九八店(ゼロキユウハチ店) 普通 口座番号：1796027

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー



NPO 法人 外国人支援ネットワーク

すたんどばいミー

〒242-0007

神奈川県大和市中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

TEL/FAX 046-272-8980

fsn.standbyme.2001@gmail.com

<https://www.fsn-standbyme.org/>